



ベトナム人実習生の部屋で見つけた牛乳パックを使った手作りの単語カード収納ケース！

9月に入りました。9月は台風のシーズン。アジ研にも既に2回、大きな台風が接近しましたが、幸いにも登校の時間帯とずれていたため、実習生の皆さんの生活に、直接大きな被害はありませんでした。ただ、テレビをつければ、関西地方での台風による水害、北海道での大地震と、深刻な自然災害が続いている日本の状況に、皆さん不安を感じているのは事実です。実習先が、関西地方や北海道の実習生にとっては、特に不安が大きくなっているようで、「せんせい、わたしは北海道にいきますが、地震は大丈夫ですか」と聞いてくる実習生もいます。そんな時は、地震があったのは北海道でも一部の地域であることや、万が一地震が来たときの避難の方法など、少しでも安心できる情報の提供に努めています。

また、自然災害の多い日本では、日頃から天気予報等の気象情報に気を配って生活することの大切さを、これから授業や日常生活を通して訴えていきたいと考えています。

## あじけんスコープ Vol.67 講師ファイル：高橋 真由美

初めまして。高橋真由美と申します。

本校で日本語を教え始めて、9ヶ月が過ぎようとしています。家族と離れ、気候や習慣の違う日本で生活しながら、日本語を学び、さらに実習先で技術を習得するために、積極的に授業に取り組む実習生の皆さんの姿に、日々、感動し、私も頑張ろうと、いつも元気をもらっています。

私は、「楽しく、記憶に残る授業」を心がけて授業をしています。そのために、講師の一方的な発話による授業ばかりでなく質問を投げかけ、できるだけ多くの実習生と会話し、さまざまな話題で一人でも多くの実習生に発話する機会を与えられるような授業をと考え、まだまだ試行錯誤しながらですが、指導に当たっています。そして、実習生の皆さんが、実習先でも臆することなく、日本語でコミュニケーションをとり、さらに日本語を伸ばし、多くのことを学び、母国で活躍する人材に育つことを願っています。いつか、「あの先生と、あんな話したなあ」と思い出してもらえれば、嬉しいです。



## 今月の実習生



今月は、ミャンマーからの実習生、写真向かって左、SAI NYI MAIN (メイン)さんと、向かって右 ZIN KO KO (ココ)さんです。

この日、担当講師から、「ミャンマー人のメインさんとココさんが珍しい服装で登校してきています！」との知らせを受けて教室に行ってみると、スカートのような、腰巻のような……。日本では、男性の衣服としては見慣れない服装の2人が……。

早速話を聞いてみるとこれは、ミャンマー人(男性)が日常的に着ている物で、この日は日本語講習最終日なので、先生やクラスメイトに見てもらいたくて着てきたとのことでした。

これは Longyi (ロンジー) といいます。  
ミャンマーの男の子です。ミャンマーでは おじいちゃん  
まいちゃん、ロンジーを着ます。メイン  
ミャンマーのロンジーはきやすくてもべんりです。ロンジー  
を着るときもちがちなつきます。みなさんもミャンマーへきて  
このロンジーを着てみてください。 ココ

## あじけん流日本語授業

～みんな大好きビンゴゲーム！～

今月のあじけん流日本語授業は、ビンゴゲームの要素を語彙学習に取り入れた実践例をご紹介します。この活動は、既習単語（動詞）の意味と語尾活用の定着・確認のために行なわれます。

まず、学習者は、講師の指示に従って、4×4（縦4マス・横4マス）のビンゴシートを各自のノートに描きます。次に講師が提示する動詞絵カードを見て、その単語を、予め指示されている形（て形・ない形等）に活用して、升目に書き込みます（写真①②）。4×4のシートなので、16枚の動詞絵カードを見て、それぞれを升目に書き入れることになります。動詞絵カードを見て、答えが思い浮かばない時は、そのカードの分は空欄となります。16枚全ての動詞絵カードの提示が終わったら、実習生は鉛筆を赤ペンに持ち替えて、いよいよビンゴの開始です。

※この時点で、動詞とその活用形が定着している学習者は16マス全てが動詞で埋まっています。思うように定着が進んでいない学習者は、空欄交じりのビンゴシートとなってしまう、ビンゴの確率が下がります。

次に、講師は任意で実習生を指名して、始めに提示した16枚のカードから目をつぶって1枚引かせます（写真③）。そして、実習生は、その動詞絵カードに該当する動詞を指示された形に活用して言います（写真④）。また、答え合わせがし易いようにホワイトボードにも書きます。他の実習生はこの単語が自分のビンゴシートにあり、活用も正しく記入出来ていれば、そのマスを赤ペンでマークをします（写真⑤）。この活動を繰り返し、いくつビンゴが出来るかを競います。通常のビンゴゲームは、誰が早くビンゴになるかを競いますが、この活動では、ビンゴになった列の数を争います。その為、始めに提示した16枚のカードを全て引かせてしまうと、ビンゴが揃いやすくなってしまいますので、ゲーム性を高める為に必ず3～4枚を残してゲーム終了とします。最後に、いくつビンゴが出来たかを確認します。

最もビンゴが多かった学習者に対する賞品等は特にありませんが、「誰よりも沢山ビンゴをとって一番になりたい」「ビンゴが少なくて最下位になりたくない!」との、競争心理が働くので、みんな何度でも夢中で取り組みます。既習動詞の意味・活用が楽しみながら復習出来たり、授業と授業の気分転換の時間としても活用出来たり、シンプルでありながら学習効果の高い活動なので、初級日本語クラスでは、お薦めの活動です。



① クラスに動詞絵カードを提示する講師 ② 提示された絵カードの意味と活用をビンゴシートに書き込む実習生 ③ 前に出て動詞絵カードを引く実習生



④ カードの意味と活用を答える実習生 ⑤ 解答を聞いてビンゴシートにマークを付ける実習生 ⑥ ビンゴの数を報告する実習生の皆さん

※ 当校ホームページ <http://www.ajiken.jp/> から「あじけん通信」バックナンバーもご覧になれます